

水島製油所における重質油熱分解装置の生産能力増強について

1. 当社(本社:東京都港区虎ノ門二丁目、社長:高萩光紀)は、製油所の競争力強化を図る観点から、このたび、当社水島製油所(所在地:岡山県倉敷市、所長:木村政信)の重質油熱分解装置(注)の生産能力を増強することといたしました。
(注) 重質油熱分解装置
アスファルトなどの重質油を高温で加熱・分解し、軽質油を生産する装置で、アスファルトの約70%をガスと油分に分解する。
2. 近年、国内の石油製品の需要構造は軽質化(白油化)が進んでおり、今後もこの傾向が続くものと予想されております。一方、原油につきましても、世界的な石油製品の需要構造の変化に伴い、軽質原油の需要が拡大していることから、重質原油と軽質原油の価格差(重軽格差)が拡大する傾向にあります。
3. 水島製油所では、これまでも重質油熱分解装置を有することから、一般的な国内の製油所に比べて、より重質な原油の処理やC重油の生産比率の低減に対応することができましたが、今回の増強により、市場の変化に一層柔軟に対応できる機動的な生産体制の構築が可能となります。
4. 具体的な生産能力増強の概要は次のとおりです。
 - (1) 装置名: 重質油熱分解装置(Delayed Coker Unit)
 - (2) 増強能力: 4,000BSD(現行能力: 26,000BSD → 増強後: 30,000BSD)
 - (3) 改造内容: 加熱炉の増設やポンプ能力の増強等
 - (4) 投資額: 約20億円
 - (5) 工期: 2006年9月～2007年3月(予定)
 - (6) 稼動時期: 2007年4月(予定)
 - (7) 施工: 日揮(株)、日陽エンジニアリング(株)

以上

● 【添付資料】重質油熱分解装置および水島製油所全景の写真



今回増強する「重質油熱分解装置」



水島製油所の全景